



車産業やらまいか再び

2021年の年の瀬、電動モビリティ(乗り物)を手掛けるスタートアップ企業テラモーターズ(東京・千代田)の上田晃裕社長の携帯電話が鳴った。電話の主は、インドにあるR&D拠点で働く社員。資本提携するクラッチ大手エフ・シー・シー(FCC)の社員を現地へ迎え、電動二輪車の開発に向けた決起集会が始まると告げていた。

二輪・四輪車向けクラッチで世界大手のFCCも、電動化による需要減のリスクに直面する。インドで「Eリキシャ」と呼ばれる電動三輪のシェア首位を築くテラモーターズは「IoT」を使ってデータを集め、金融や広告などに使う新たなサービスも志向している。従来の枠を超えたビ

# 既存構造に変化の胎動

## 異業種連携で収益の柱育成



エフ・シー・シーは、インドで電動三輪車ビジネスを手掛けるテラモーターズと提携した



増田鉄工所は電気モーターの回転部品を試作からバランスの測定、修正まで一貫して提供する事業に参入した

ジネスの絵を描く同社と組み、新事業を開拓する。「世界的に脱炭素の動きが加速するなか、成長が期待されるインドを含むアジアの電動車市場を開拓する」。FCCは将来的な二輪の電動化をに

らみ、同分野向けモーターユニットを開発してきたが、テラモーターズとの協業ではインド向けに電動二輪や三輪の共同開発に取り組み。23年6月までに電動二輪の新型車投入をめざす。

「既存の産業ヒラミッドは崩れ去る」。スズキの鈴木修相談役は語る。自動車メーカーを頂点に部品会社や連なる構造が崩れた後は、新規参入組を含めた車メーカーが車の設計やデザイン、ソフトなどを開発し、スマートフォンのように生産を外部に委ねる「水平分業」が広がる可能性もある。競争は激しくなる。米アッ

プルが計画中で噂される「アップルカー」は象徴的な動きといえる。産業構造の変化の胎動は既にある。四輪・二輪向け変速機部品を手掛ける増田鉄工所(浜松市)。工場に真新しい装置があった。電気モーターの回転部品のバランスを測る専用装置だ。バランスが悪いと回転時に激しい振動や騒音が生じて摩擦や破損の原因になる。偏りを見つけると、熟練工の技により修正を巧みに施していった。

回転部品のバランス測定は同社が数年前から立ち上げた新事業の一端だ。モーター回転部品の試作からバランスの測

定、修正までを一貫提供する。強みは短納期だ。旋盤による治工具づくりで培った技術と高精度な設備を融合し、別々の企業が手掛ける各工程を一貫できるようにした。3カ月程度だった納期は約1週間に短くできる。参入のきっかけは、かねて取引のあった地元商社、天方産業(同)から持ち掛けられた電気自動車(EV)向けモーター回転部品の試作だった。引き受けることにしたの

は将来への危機感があったからだ。車生産の海外移転が加速しており、日本で自社が手掛けられるビジネスはいずれ消えていく。そんな不安が頭を

もたげていた。天方産業による営業支援を受け、新事業の顧客は今ではEV関連以外にも含め数十社に広がってきた。売上高は全体の1割にまで伸びた。ドローン、ロボット、宇宙関連など車以外に顧客の幅も広がってきている。「主力の車部品だけに頼らない、新たな収益の柱を育てる気概で挑んでいる」。増田鉄工所の西川正祥業務課長は意気込む。

田鉄工所の西川正祥業務課長は意気込む。異業種との連携は変化を加速する。車部品を手掛けるTRC高田(同)の高田修平代表は21年11月、神戸市で開かれた中古車オークション会場にいた。リチウムイオン電

池に参入した同社は同年9月、車や二輪の電池が上がった際、エンジン始動に使う機器「ジャンプスターター」を第1弾で発売。会場では利用者の声を拾っていた。EVの時代も安泰にみえる同社はなぜ全くの異分野に進出したのか。車体部品の市場はエンジン部品メーカーなどが今後多く参入することで、「パリの奪い合いになりかねない」(高田代表)との警戒感があるためだ。同社は台湾のリチウムイオン電池メーカーと協業し、新素材により安全性が高く長寿命な電池の事業を日本で始めた。

第2弾の製品として月内に電動フォークリフト向け電池も投入する。脱炭素を追い風に、大手企業が手掛けないニッチ市

場を開拓する。コロナ禍前の19年9月期の売上高は約6億円だったが、事業の幅を電池以外にも広げており10億円が視野に入る。異分野への挑戦は困難も多いが、高田代表はそのいばらの道の先を見据えている。

浜松ではかつて最盛期に30社ほどあった二輪車メーカーの多くが淘汰され、後に車を中核とする産業が築かれた。既存の産業ヒラミッドは崩れ去る。この道はいつか来た道だ。古きを壊して新しきを創る「創造的破壊」こそ、今求められている。新沼大、高瀬将吾が担当しました。

### ドライブスルーで調剤薬

杏林堂薬局(浜松市)は、車に乗ったまま処方せん薬を受け取れるサービス「ドライブスルー調剤」を浜松市内の根洗店で始めた。新型コロナウイルス禍を受け、接触を少なくして薬を購入した

利用客はドライブスルー調剤専用の受付窓口で処方せん薬を注文。受け取り、受け取り待ちの専用駐車場も用意し

### 人事

(地名は支店長) 静岡中央銀行 (1月6日) 富士宮、木村電太